豊庄だより

第 758 号 2023 年 5 月 22 日

福岡市早良区南庄２－２６－１３
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長　西尾　達

先週は真夏のような暑い日が続きました。子どもたちの体調もコロナ禍の時ほどではありませんが、下痢、発熱、嘔吐で休むケースが見られます。また、用心のため自宅で過ごす子どもたちもでています。まだ暑さになれず体調を壊しているようです。

さて、今号は先週の合同朝の会の話を紹介します。夏の花シャクヤクをいただき、この花の話をすることにしました。シャクヤクだけでは寂しいと思い、ぼたん、ゆりを加えました。ぼたんは冬の花で入手できず、ゆりも入手できず、写真による「参加」としました。3つの花にしたのは、3つの花に因（ちな）む「ことわざ」があるからです。「立てばしゃくやく　座ればぼたん　歩く姿はゆりの花」です。これは美しい女性を表すことわざです。七五調になっていて、調子よく詠むことができます。朝の会では、みんなで声を出して詠みました。※左の写真は、その時使った 3 つの花です。事務室前に飾りました。

七五調といえば短歌や俳句です。いま、世界の人にも愛好家が広がっています。その中でもロシアとウクライナは今回の戦火のずっと以前から俳句ブームが起こっていました。先日、テレビのドキュメンタリー番組で、「戦火の中のHAIKU」という作品を放送され、観ました。「戦火（禍）の中」とは、ウクライナのことです。戦争が始まって、数カ月かけて集めた俳句とインタビューが放映されました。その中から数句紹介します。「うつくしき　空より飛来　ロケット我らに」「掌に　ミサイルかけら　痛い」「子ら遊ぶ　紙飛行機で　防空壕」。ウクライナ・ロシア語を翻訳しているのですが、自由律俳句が頭に浮かびました。「分け入っても　分け入っても　青い山」（種田山頭火）。5・7・5にとらわれず自由に詠んでいます。戦火の中で読まれた俳句も自由律です。しかし、自由を奪われた中での俳句は、苦しさと悲しさを訴えています。

今号はもう一つ話題を。ゴールデンウィーク中に録画していた映画を見たことは豊庄だより 765 号で書きました。映画を何本かを紹介しましたが、「破戒」を観たことをうっかり忘れていました。原作は島崎藤村です。明治後期、部落出身の教員瀬川丑松が父親から身分を隠せと堅く戒められていたにもかかわらず、部落解放活動家の影響を受け、父の戒めを破ってしまい、その結果、社会から苛烈に追い詰められて行くという話です。映画を観終わり、こんな話だったかなあと、原作を読むことにしました。これまで、「破戒」の名は知っていましたが、「差別を温存させ、挑発しようとする日本のマスコミに、一つの大きな援助をする」と部落解放運動の立場からは批判され、私も読むのをためらっていました。今回、映画「破戒」に出会い、分厚い文庫本ですが、原作を読破しようと思っています。※70 ページが「破戒」をめぐる論争についての解説でした。